

大会派遣の選手選考

(1) ジュニアワールドカップ大会

- ① 原則として、全日本距離別に出場し、今年度のISUのエントリールール及び年齢基準に該当する選手の中から、男女それぞれ5名ずつ選考する。
- ② 500m、1000m、1500m、3000m(女子)、の各距離最上位の選手を選考する。
男子 3000mについては、3000mの競技結果と、5000m出場者の順位とその 3000mの通過タイムも考慮して選考する場合もある。
- ③ 各距離最上位以外の選手選考に関しては、次に位置する選手の中から、順位やタイムなどを総合的に勘案し選考委員が選考する。
- ④ 特別の事情がある場合は、日本スケート連盟ジュニア特別強化指定選手・ジュニア強化選手の中から選考することもある。

(2) 世界ジュニア選手権大会・ジュニアワールドカップファイナル

- ① 全日本ジュニア(総合部門)総合1位・2位を派遣する。
- ② 全日本ジュニア(スプリント部門)500m1・2本目の合計タイムの最上位者を派遣する。
- ③ 残る2枠は、総合部門・スプリント部門の総合成績、500m×2本、1000m・1500m・3000m及び5000mの成績などの単一種目の成績と、チームパシュートの構成を勘案して選考する。但し、女子1000mについては、総合及びスプリントを併せて検討する。
- ④ 全日本選手権大会及び全日本スプリント大会で、シニア国際大会に選考された場合は内定を出す場合もある。
- ⑤ 今年度のISUの参加要項に変更があった場合は、それに準じて選考方法を再検討し変更することもある。

(3) カルガリーファイナルについて

- ① 原則として、今年度実施される下記大会の基準に該当した選手の中から選考する
- ② 選考は、当該選手推薦者より提出された「日本スケート連盟ジュニア強化育成事業海外派遣推薦書兼承諾書」(以下「推薦書」)を基に選考委員会で決定する。推薦書が提出されていない場合は、選考対象から外すこともある
- ③ 推薦に当たっては、当該学校長の承認及び保護者の承認が得られていること
- ④ 中学及び高校卒業後スピードスケートの継続の意志のない選手は推薦しないこと
- ⑤ 派遣期間と受験等を考慮して推薦書を提出すること
- ⑥ 過去に派遣された選手であっても、条件に合致した場合や継続派遣の必要性が認められる場合は、合議の上派遣(選考)の対象とする
- ⑦ 同一校・同一チームから複数推薦する場合は、推薦順位をつけること
- ⑧ 原則として、世界ジュニアに選考された選手は除く

選考基準大会及び順位	インターハイ	各種目	8位
	全日本ジュニア	総合種目	各種目 8位
		SP種目	各種目 8位
	全国中学	各種目	3位

※上記選考基準では判断できない場合は、選考委員会の協議によって選考する。

ユースオリンピック選考基準

第1次選考

- ① 当該年度に、その年齢に該当する選手。
- ② 第31回全国中学校スケート大会（長野市）において500m・1500m・3000mの1位～8位の選手。

第2次選考

- ① 原則として、全日本距離別選手権大会（10月長野）に出場し、今年度のISUからのCommunicationのエントリールールに該当する選手の中から、男女それぞれ4名ずつ選考する。
- ② ユースオリンピック対象枠で出場を認められた選手（以下ユース対象選手）の全日本距離別選手権の出場種目は、その対象種目500m・1500m・3000mのみとする。その他の対象選手には制限をつけない。
- ③ 選考対象種目は、500m・1500m・3000mとし、その距離の最上位者を選考する。
- ④ 各距離最上位以外の選手選考に関しては、次に位置する選手の中から、タイムなどを総合的に勘案し選考する。
- ⑤ 選考された選手は、ジュニアワールドカップ（エルフルト・ビュグン大会）に、ユースオリンピック枠として出場する。
- ⑥ 全日本距離別選手権大会に参加するユース該当選手は、ユースオリンピックへの参加意思があるものとみなす。
- ⑦ ユース対象選手は、ジュニアワールドカップの選考とは別に扱い、選考はその対象外とする。

第3次選考

- ① 原則として、ジュニアワールドカップに出場した選手から男女各2名を選考する。
- ② ジュニアワールドカップ2大会の結果におけるランキングに基づき、ユースオリンピックでのメダル獲得有望種目を優先し選考する。
- ③ ユースオリンピックの参加要項に変更及び不測の事態があった場合は、それに準じて選考方法を再検討し変更することもある。

※上記選考基準では判断できない場合は、選考委員会の協議によって選考する。